

四方田千佳子，“製剤変更時における生物学的同等性試験” 緒方宏泰監修，情報協会，東京（2007），pp.252-258

檜山行雄：“わが国における製剤GMPの展望”，医薬品の品質確保

奥田晴宏，清原孝雄，小嶋茂雄 編集 エル・アイ・シー（2006），pp.520-527

檜山行雄：“品質リスクマネジメント”，医薬品の品質確保

奥田晴宏，清原孝雄，小嶋茂雄 編集 エル・アイ・シー（2006），pp. 490-501

坂本知昭他：“日本薬局方技術情報 2006”，財団法人日本公定書協会編集，じほう，東京（2006），pp.41-43

坂本知昭他：“寄生虫薬物治療の手引き 2007”，ヒューマンサイエンス振興財団政策創薬総合研究事業「熱帯病・寄生虫症に対する稀少疾病治療薬の輸入・保管・治療体制の開発研究」班（略称，熱帯病治療薬研究班）編集，（2007），pp.85-87

合田幸広（分担訳者）：“健康食品データベース **Pharmacist's Letter**”，Prescriber's Letter 編，（独）国立健康・栄養研究所監訳，第一出版，東京（2007）

合田幸広（分担執筆）：“健康・栄養食品アドバイザースタッフ・テキストブック（第5版）”，国立健康・栄養研究所監修，山田和彦・松村康弘編著，第一出版，東京（2007），pp.110-115

合田幸広：“日本薬局方技術情報2006”，日本公定書協会編，じほう，東京（2006. 9），pp.11-12, 178-182, 264-265

川原信夫：“日本薬局方技術情報2006”，日本公定書協会編，じほう，東京（2006. 9），pp.1466, 1490, 1528

袴塚高志：“医療を指向する天然物医薬品化学”，横江一朗・北中進編，廣川書店，東京（2007），pp.67-85

袴塚高志：“パートナー生薬学”，指田 豊・山崎和男・竹谷孝一編，南江堂，東京（2007），pp.141-148, pp.365-367

新谷英晴：“各種製造設備・クリーンルームにおける洗浄・殺菌技術”，洗浄・殺菌技術の基本的理解とレギュレーション，技術情報協会，東京（2006），pp.1-53

新谷英晴：“微生物試験法と管理対策”，医療用品の滅菌・殺菌・消毒方法と無菌性保証の確保，情報機構，東京（2007），pp.239-271

西村哲治：“水環境ハンドブック”，（社）日本水環境学会編集，朝倉書店，東京，（2006），pp.527-528

米谷民雄：“健康・栄養食品アドバイザースタッフ・テキストブック（第4版）”，食品添加物，（独）国立健康・栄養研究所監修，山田和彦・松村康弘編，第一出版，東京（2006），pp.259-268

米谷民雄，佐々木久美子：“食品分析法の妥当性確認ハンドブック”，食品衛生法における残留農薬試験法と妥当性確認，永田忠博，後藤哲久，丹野寛二，安井明美，湯川剛一郎編，サイエンスフォーラム，東京（2007），pp.263-275

穂山 浩，豊田正武¹：“アレルギー原因食材検知技術 “，新・食品分析法2，光琳出版，東京（2006），pp.160-172

¹ 実践女子大学

春日文子：“食中毒検査・診療のコツと落とし穴”，食中毒のリスクアセスメント，渡辺治雄編，中山書店（2006），pp.148-149

五十君静信：“プロバイオティクス・プレバイオティクス・バイオジェニクス・腸内細菌の関わりを中心としたその研究と意義”，プロバイオティクスの安全性，光岡知足編，財団法人日本ビフィズス菌センター，東京（2006），pp.109~113

五十君静信：“臨床病理レビュー特集号第136号 食中毒と食品微生物 食生活の安全性と衛生管理”，食中毒細菌と検査法，日本臨床検査医学会，東京（2006）

五十君静信：“食品分析法の妥当性確認ハンドブック”，キットでない分析法のバリデーション，永田忠博他編，サイエンスフォーラム，東京（2007），pp.205~212

五十君静信：“シリーズ21世紀の農学 動物・微生物

の遺伝子工学研究”, 微生物における遺伝子組換え研究の意義と直面する問題, 日本農学会編, 養賢堂, 東京 (2007), pp.41~55

五十君静信監修: “キッチン”, 桂樹社, 東京 (2007)

Cebra, J.J.^{*1}, Bos, N.A.^{*2}, Boyko, N.V.^{*1}, Kushnir, N.^{*1}, Stoel, M.^{*2}, Surh, C.^{*3}, Suzuki, H., Thurnheer, M.C.^{*1}, Wu, G.D.^{*1}, Uchida, K.^{*1}, and Zuercher, A.W.^{*1}: “**Old Herborn University Seminar Monograph 19. Defence Mechanisms of the Innate System: Influence of Microbes**”, ed., Heidt, P.J., Bienenstock, J., Midtvedt, T., Rusch, V., and van der Waaij, D., Herborn Litterae, Herborn-Dill (2006), pp. 33-44

^{*1}: University of Pennsylvania

^{*2}: University of Groningen

^{*3}: The Scripps Research Institute

奥田晴宏: 医薬品の品質確保 増補改訂2006 奥田晴宏 清原孝雄 小嶋茂雄 編集株式会社 エル・アイ・シー, 東京 (2006), 第6章1節および4節

森川 馨: “無菌製剤製造のためのプロセスバリデーション”, 森川 馨編著, 講談社, 東京 (2006)

山本美智子, 森川 馨: 医療薬学フロンティア 医薬品情報と薬物治療編 医薬品情報の活用, 日本医療薬学会編, 薬事日報社, 東京 (2006), pp.35-51

Hajime Toyofuku, Fumiko Kasuga: *Escherichia coli* O157: H7 outbreak in Japanese school children, Case study IV, Children's health and the environment, A Global perspective, WHO (2006), pp.330-333

Hajime Toyofuku: **Overview of national approaches to facilitate HACCP application in SLDBs, Case Study: Japan, HACCP in small and less-developed food businesses**, FAO Food and Nutrition Paper 86, (2007), pp.53-55

Nakano, T., Mochizuki, Y.^{*1}, Fukuzawa, K.^{*2}, Amari, S.^{*3} and Tanaka, S.^{*4}: “**Developments and applications of ABINIT-MP software based on the fragment molecular orbital method**”, in Modern Methods for Theoretical Physical Chemistry of Biopolymers, ed. Starikov, E. B., Lewis, J. P. and Tanaka, S., Elsevier, Amsterdam (2006), pp. 39-52

^{*1} 立教大学

^{*2} みずほ情報総研株式会社

^{*3} 東京大学

^{*4} 神戸大学

大野泰雄: “ヒト肝細胞を用いた予測とデータのばらつきについて”, 薬物クリアランス (代謝, 取り込み, 排泄) および組織移行特性の予測, 最新創薬学, 遺伝子医学MOOK7, 杉山雄一編集, メディカルドゥ 東京 (2007), pp.67-72

大野泰雄: “培養細胞を用いた眼刺激性試験代替法について”, 最新動物実験代替法. 日米欧関連法規への対応/各種試験の手順, 技術情報協会 東京 (2007), pp.85-103

大野泰雄, 笛木 修*, 荒戸照世*, 広瀬明彦, 鎌田榮一: “マイクロドーズ臨床試験の毒性学的根拠について”, 杉山雄一, 栗原千絵子編集 マイクロドーズ臨床試験 理論と実践 —新たな創薬開発ツールの活用に向けて— じほう 東京 (2007) pp. 11-22

*: (独) 医薬品医療機器総合機構

小澤正吾: “創薬動態”, DMPK誌ニュースレター編集委員会編集, 日本薬物動態学会, 東京 (2006), pp.56-58

小澤正吾: “新臨床腫瘍学”, 日本臨床腫瘍学会編集, 南江堂 (2006), pp.247-249

小島 肇: “皮膚毒性の安全性評価, 化粧品の各種評価技術”, 化粧品大全, 情報機構 東京 (2006), pp.407-416.

小島 肇: “感作性・刺激性試験/安全性評価のトラブル時の対応”, 現場レベルでの皮膚測定・評価〜トラブル事例・対策〜, サイエンス&テクノロジー 東京 (2007) pp.268-273

小島 肇: “皮膚刺激性試験について”, 最新動物実験代替法, 技術情報協会 東京 (2007) pp.63-71

小島 肇: “皮膚腐食性試験について”, 最新動物実験代替法, 技術情報協会 (2007) pp.75-84

小島 肇: “バリデーションについて”, 最新動物実験代替法, 技術情報協会 (2007) pp.267-273

小島 肇：“皮膚一次刺激性評価法”，機能性化粧品素材開発のためのin vitro/細胞/組織培養評価法ハンドブック，芋川玄爾著，シーエムシー出版 東京（2007）6月発刊

Nishikawa, A. : “**Modification of experimental carcinogenesis by cigarette smoke and its constituents**” , In : eds. Cho, C.H. and Purohit V., Alcohol, Tobacco and Cancer, Karger, Basel (2006) , pp. 237-252

Nishikawa, A. : “**Environmental factors synergistically interacting with iodine deficiency on thyroid**

carcinogenesis” , In : Trends in Cancer Research, Research Trends, India (2006) , pp. 119-125

Masutomi, N.* , Shibutani, M. : “**Analgesia, anesthesia, and postoperative care in laboratory animals**” , In : eds. Tatlisumak, T., Fisher, M., Handbook of Experimental Neurology : Methods and Techniques in Animal Research. Cambridge University Press, Cambridge (2006) , pp. 40-66

* Mitsubishi Pharma Corporation